

## 努力事項 その8 (小学校)

「学校教育指導の重点」の図画工作の努力事項をひとつずつ考えていきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。

学校の実態や児童の発達の特性に応じ、幼稚園、中学校との接続や2学年間の見通しをもち、表現活動及び鑑賞活動を通して児童の資質や能力を高めることができるように指導計画を作成しましょう。

これは、どういうことなのでしょうか？

「学校の実態や児童の発達の特性に応じ、幼稚園、中学校との接続や2年間の見通しをもち」とは

「学校の施設設備の状況を把握し、幼児期から児童期への過渡期である低学年の児童の発達の特性に応じるなどして指導計画を作成しましょう。」ということです。

指導計画を作成するに当たって、学校の施設設備の状況を把握したり、幼児期から児童期への過渡期である低学年の児童の発達の特性に応じることはとても大切です。次の視点から、これらを多面的に把握して指導計画の作成に生かしましょう。

### (1) 学校の施設・設備の把握

- 図画工作室等にある機械工具類の種類や数、整備の状況
  - ※ 必要な機械類で修理が必要なものは計画的に修理をするようにしましょう。
  - ※ 工具類で数が不足しているものは、計画的に補充するようにしましょう。

### (2) 地域の美術に関する施設・設備の把握

- ① 地域の美術館等の有無
- ② 地域の美術館がある場合、企画展等のスケジュール、体験教室等の有無

### (3) 低学年の児童の発達の特性を踏まえる

小学校低学年の時期を「幼児期の終わりから児童期へ変わっていく時期（接続期）」ととらえ、**生活科でスタートカリキュラムを編成するなど**次のような配慮をしていくことが必要です。

（「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について【報告】〔文部科学省〕」より）

## 1 接続の在り方についての報告のポイント

- (1) 幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」で捉える。
- (2) 幼児期と児童期の教育活動をつながりて捉える。
  - 小学校入学時に幼児期の教育との接続を意識した**スタートカリキュラムの編成**の留意点を示す
- (3) 接続の取組を進めるための方策（連携・接続の体制づくり等）を示す。

## 2 スタートカリキュラムについて

### (1) スタートカリキュラムとは？

スタートカリキュラムとは、児童が義務教育の始まりにスムーズに適応していけるようなカリキュラムを構成することです。例えば、小学校第1学年において、教科を横断した大単元から各教科の単元へと分化していく教育課程を編成することが考えられます。具体的には、生活科において学校を探検する学習活動を行い、そこで発見した事柄について、伝えたいという児童の意欲を生かして、国語科、音楽科、図画工作科においてそれぞれのねらいを踏まえた表現活動を行うなど、合科的に扱うことが考えられます。

（文部科学省ホームページから）

(2) 具体的には？

例えば、1年生の4月の最初の単元では、学校を探検する生活科の学習活動を中核として、**図画工作科**、音楽科、国語科などの内容を合科的に扱い大きな単元を構成することが考えられます。こうすることで、幼児期から児童期への過渡期といわれている低学年の児童が、自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となってきます。

(4) 中学校との接続や2年間の見通しを持ち、とは

① 中学校との接続

これについては、当たり前のことではありますが、小学校6年間で身に付けるべき資質や能力を確実に身に付けさせることが大切であり、中学校の美術科の学習内容を先取りすることではありません。これを踏まえて、指導計画を作成しましょう。

② 2年間の見通しを持ち、とは

小学校図画工作科の学年の目標は、下記のように2年間ごとに示されています。低学年、中学年、高学年のそれぞれのねらいを踏まえるとともに、2学年間を見通して、学年間の関連を図ってそれぞれの目標を達成できるように指導計画を作成するようにしましょう。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
1 目標 (1) 進んで <b>表したり見たりする</b> 態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。  (2) <b>造形活動を楽しみ</b> 、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。  (3) 身の回りの作品などから、面白さや <b>楽しさ</b> を感じ取るようにする。	1 目標 (1) 進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。  (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。  (3) 身近にある作品などから、 <b>よさ</b> や面白さを感じ取るようにする。	1 目標 (1) <b>創造的に</b> 表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。  (2) 材料などの <b>特徴をとらえ</b> 、 <b>想像力を働かせて</b> 発想し、 <b>主題の表し方を構想する</b> とともに、 <b>様々な表し方を工夫し</b> 、造形的な能力を高めるようにする。  (3) 親しみのある作品などから、よさや <b>美しさ</b> を感じ取るとともに、 <b>それらを大切に</b> するようにする。

表現活動及び鑑賞活動を通して、とは

表現の活動と鑑賞の活動を、それぞれ独立して行うのではなく、十分に関連させて行うようにしましょう、ということです。

これについては「図画工作・美術の部屋」に、6月24日（月）にアップした「表現と鑑賞の関連を図るとともに、諸感覚を働かせた能動的な鑑賞となるような鑑賞の活動を工夫し、言語活動の発達に対応した学習活動を展開する。とはどういうことでしょうか？」に記載しましたので、それをご覧ください。

以上について配慮し、生徒の資質や能力を高めることができる指導計画を作成していきましょう。



次回は、中学校の努力事項「それぞれの学年において、描く活動とつくる活動のいずれも経験できるよう題材を設定し、調和のとれた指導計画を作成しましょう。」について考えてみます。

9月13日（金）頃アップの予定です。